

特集

One Company, One Athlete—

第12回「アスナビ」

トップアスリート就職説明会
初のオンラインで開催

9月16日、経済同友会はJOC(日本オリンピック委員会)と、
トップアスリートの就職支援ナビゲーション
「アスナビ」の説明会を開催した。

一つの企業に一人のトップアスリートの雇用
または活動支援をお願いするもので、
2010年10月の初回以来、12回目を迎えた。

当日の様々と、5人のアスリートプレゼンテーション、
そして同日、説明会とは別個に行われた
座談会の概要をお伝えする。

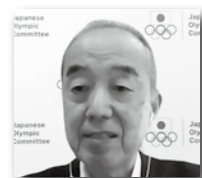


*「アスナビ」とは…

就職を希望している現役トップアスリートと企業のマッチングをする、JOCによる無料の職業支援制度。経済同友会では2010年のスタート時より会員企業への説明会を開催し、積極的に協力している。世界を目指すトップアスリートの生活環境を安定させることで、競技を安心して続けられる環境をつくり、雇用側と双方にとってWin-Winの関係を目指す。

トップアスリートが 企業にプレゼンテーション

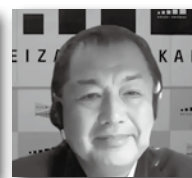
これまでJOCのアスナビプログラムを使って採用されたアスリートは累計324人(204社に採用)。12回目となる今回の説明会には会員企業24社36人がオンラインで参加した。5人のアスリートは動画による自身の競技の説明と、競技から得た力を社会人として活かせるとの思いを込めプレゼンテーションを行った。また、1988年ソウルオリンピック銅メダリストの小谷実可子氏から応援メッセージをいただいた。司会は日本オリンピック委員会JOCキャリアアカデミー事業アスナビプランニングディレクターの長谷川治氏(p03に写真)が務めた。



星野 一朗
日本オリンピック
委員会(JOC)理事



中村 裕樹
JOCキャリア
アカデミー
事業ディレクター



大西 賢
経済同友会
東京オリンピック・
パラリンピック
2020委員会 委員長

アスリートの経験や知見は 必ず御社の役に立てるものと確信

説明会では最初に、星野一朗JOC理事が主催者を代表して、説明会実施日である9月16日時点の採用実績を報告。これまで毎年、説明会を実施してきたが、新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、熟慮を重ねて、経済同友会の協力の下、アスナビ説明会では初となるオンライン形式により開催さ

れることへの感謝の言葉を述べた。

続けて「アスリートが頑張る姿、困難に打ち勝ち壁を乗り越えていく姿は、皆さまにも勇気や感動を感じていただけるものと思う。課題を見つけ、克服し、昨日の自分に勝つために努力を惜しまない彼らの経験や知見は、採用された後には必ず御社の役に立てるものと確信しております」とアスリート採用の効果を強調した。

続いて、大西賢東京オリンピック・

パラリンピック2020委員会委員長が参加企業へアスリート支援を呼び掛けた。

次に、中村裕樹JOCキャリアアカデミー事業ディレクターがアスナビの概要を説明し、過去の採用実績、雇用条件、採用企業の担当者のコメントなどを紹介した。アスリートのプレゼンテーションの後、司会者によるインタビューも実施された。

新型コロナウイルス禍以降 初のアスナビにチャレンジ

大西 賢

東京オリンピック・パラリンピック2020委員会 委員長

アスナビは通算12回目を迎える大変息の長い取り組みの一つです。世界的にコロナウイルスの猛威を押さえ込めていませんが、アスリート支援を根付かせようと始めて築いてきたこの活動をやめるべきではない、いや、今こそやろうと、コロナ禍以降初のオンラインによるアスナビにチャレンジしました。就職を希望するアスリートの皆さんもいつも以上に緊張するかもしれませんが、これまでの私の経験ではむしろ緊張した皆さんの方が、地が出て好印象が残るような気がしてなりません。思い切り緊張した姿を見せてください。ご参加企業の皆さんには、この活動をご理解いただき、ぜひご支援をお願いいたします。

●オリンピックからのメッセージ

新たな発見や学びを得る アスリートを応援

小谷 実可子

シンクロナイズドスイミング(現アーティスティックスイミング)
ソウルオリンピック(ソロ/デュエット)銅メダル

アスリートたちは不安を抱えながらも、前を向いて信じて頑張ってきました。新型コロナウイルス禍でも工夫して新たな発見や学びを得て、成長につなげる努力をしています。参加企業様も今までとは違う形態の中で苦勞されてきたと思います。こんなときだからこそアスリートを仲間に加えていただくことで、彼らの背中にパワーをもらい、あるいはうまくいかないときに「頑張れ」と声を掛けることでチームワーク、絆が生まれることもあるのではないのでしょうか。大変な状況ではありますが、このような中でそうした仲間を得るためにも本日、ぜひ新たな絆をいただけたらと思います。



●プレゼンテーションを行ったアスリート

支えてくれる方々にどう貢献するか、考え実行したい



白井 勝太(しらい しょうた)
レスリング／フリースタイル

●1995年生まれ。福岡県福岡市出身。2020年3月、日本大学大学院文学研究科博士前期課程教育学専攻退学。●2017年天皇杯全日本選手権1位／2018年ワールドカップ(団体)3位／2018年明治杯全日本選抜選手権1位／2019年天皇杯全日本選手権3位。

競技活動で、ゴールを達成するには何を最優先し、どうクリアしていくのか「逆算する力」と人の表情や癖の細かな変化まで見抜く「観察力」が養われ、多くの方々に助けられたことで「感謝の心を持つことの大切さ」を学びました。支えてくれる方々への貢献を考え実行することがアスリートとしてやるべきことだと考えています。

ここぞというときに自分の力を発揮できる



荻原 和(おぎはら なぎ)
スキー／フリースタイル

●1998年生まれ。長野県佐久市出身。2021年3月、松本大学人間健康学部スポーツ健康学科卒業見込み。●2017年第37回全日本スキー選手権大会MO優勝／2018年Canadian Selections 2019(1日目)優勝／同(2日目)2位／2019年WINTER UNIVERSIADE2019 5位。

スキー競技で培ってきた力は、目標に向かってコツコツ努力する力と新たな課題にも粘り強く挑戦していく力です。ここぞというときに自分の力を発揮できる集中力と状況を読む力で、やらねばならないことを考え行動に移すことができます。また、資格を活かし、職場の心身の健康、健康経営に貢献したいと考えています。

企業を通して社会貢献し、カヌーの魅力を伝えたい



岡崎 遥海(おかざき はるか)
カヌー／スラローム

●1998年生まれ。広島県安芸高田市出身。2021年9月、至誠館大学ライフデザイン学部卒業見込み。●2019年U23世界選手権28位／2019年ジャパンカップキョクヨーシリーズ最終戦K-1、C-1、C-2ミックス優勝／2019年同シリーズ年間総合ランキングK-1、C-1共に1位。

高校から親元を離れ、トレーニング環境の整った山口県萩市に拠点を移し練習し、自分で活動資金を調達しています。そのため、社会的な対応力や判断力、努力は人一倍あります。私のパフォーマンスで人々を感動させたり熱くさせたり、喜ばせたい。そして、企業を通して社会貢献を行うとともにカヌーの魅力を伝えたいと思います。

キャプテンとしての責任感が自身の成長力に



中園 貴登(なかぞの たかと)
体操／トランポリン

●1998年生まれ。大阪府高石市出身。2021年3月、金沢学院大学経営情報学部経営情報学科卒業見込み。●2017年全日本学生選手権大会個人優勝など／2018年国際ローレカップ個人4位／2018年全日本選手権大会個人5位、シンクロ2位、団体優勝／2019年世界年齢別トランポリン競技大会日本代表。

大学在学時にはキャプテンを務め、個々人との積極的なコミュニケーションを重視し、全員が同じ方向を向けるよう心掛け、互いに切磋琢磨し高め合える練習環境づくりに励みました。競技を通して、自ら考え責任感と主体性を持って取り組むことが、自身とチームの士気や結果に大きく影響することを学びました。

精神をコントロールし、高いパフォーマンスへ



潮崎 傑(しおざき すぐる)
陸上競技／十種競技

●1996年生まれ。兵庫県神戸市出身。2021年3月、日本大学大学院総合社会情報研究科人間科学専攻卒業見込み。●2016年第85回日本学生陸上競技対校選手権大会2位／2018年第102回日本陸上競技選手権大会混成大会6位／2019年第88回日本学生陸上競技対校選手権大会2位。

大学院でスポーツ選手のパフォーマンス発揮について心理的側面から学び、リラクセス法や集中法、心理状態を測定するテストなどで実践的に精神状態をコントロールできるようになりました。日々振り返りを行い自分自身を把握し、課題を見つけ解決することを、社会人としての成長に活かしていきたいと思っています。

コロナ禍でもアスリートは走り続けている

新型コロナウイルス感染症はオリンピック・パラリンピック出場を目指すアスリートたちの競技生活にも大きな影響を及ぼしている。逆風の中でもアスリートは心身のコンディションを維持し、各々の目標に向かって努力を重ねる一方で、就職への期待と不安も抱えている。アスリートの等身大の思いを語ってもらった。

経済活動があってこそその競技と実感できた

大西 緊急事態宣言が出されて外出自粛が続く中で、メンタル面においてどのような変化があったのか。さらに、日々の練習や生活が大きく変わったと思いますが、具体的な事例を踏まえて心境の変化について教えてください。

白井 メンタル面では割と冷静でした。コロナを通して痛感したのは、アスリートは経済や社会活動の基盤の上に置かれているということです。僕たちが必死に取り組んでいる競技は、経済活動が成立していて初めてできる。良い成績を上げているから、一生懸命やっているからという心意気だけではどうにもなりません。自粛期間中に、YouTubeなどで経済について学び、以前よりは理解できるようになったと思います。

岡崎 私の大学は山口県にあり、都市部から離れた森の中で普段トレーニングをしているので、東京のように完全に自宅に籠ることはありませんでした。ただ、カヌーはレースが全部キャンセルになり、相談相手もいない中でメンタ

◆聞き手



大西 賢
東京オリンピック・パラリンピック2020委員会委員長



久野 孝男
日本オリンピック委員会
アスナビ チーフプランニング
ディレクター

◆参加アスリート

白井 勝太(レスリング/フリースタイル)
荻原 和(スキー/フリースタイル) *
岡崎 遥海(カヌー/スラローム)
中園 貴登(体操/トランポリン) *
潮崎 傑(陸上/十種競技)

*はリモート参加

ルを保つのは難しかったです。それでも、この状況がいずれ終わると信じてトレーニングを続けてきて、ようやく来月(10月)、日本代表の選考会が行われることになりました。自粛中でも練習を積み重ねてきたことは大事だったと、今は心がスッキリ晴れた気分です。

潮崎 大学は閉鎖、寮も一時使えなくなり、神戸の実家に帰らなければならない状況で、練習環境は厳しかったです。ただ、昨年秋の大けがによる手術で、春先のシーズンインに間に合わなかったのが、結果的に自分としてはよかったというか、自粛期間中が準備期間になった面はあります。

荻原 私は練習面よりも自分がコロナにかかってしまわないかという不安が大きかったです。5月に39度の熱が出ました。結局は胃腸炎だったのですが、感染予防をしっかりとしなければと再認識しました。自粛期間中は自宅で基礎トレーニングを積み、緊急事態宣言解除後は、乗鞍岳(北アルプス)でリフトを使わずにコースを歩いて登る練習を続ける中で、こうした基礎トレーニングが役立ったことを実感し、それまでなかったスピードが出るようになってモチベーションも上がりました。





中国 昨年は東京2020大会を目指して練習に励む一年でした。その目標がかなわなかったことから、今年はゼロから積み上げていく再スタートの年と思っていました。自粛期間中は、新しいスタートに向けた時間がより多くつくれたと思います。潮崎さんと同じように、私も4月上旬に肘を脱臼して1カ月ほど離脱することが決まっていたので、自粛期間をより前向きに考えることができました。けが自体は良いことではありませんが、タイミング的には自粛期間と相まって、自分を見つめ直すことができました。

社会人として人間関係で何を重視するか

大西 皆さんのエントリーシートを読むと、人と接する際に心にかけていること、チームリーダーとして取り組んできたことが多く見受けられます。企業の中でも、人との関係性やリーダーシップは極めて大切です。人間関係で大切にしたいことを具体的に話してください。

岡崎 カヌースラロームはヨーロッパでは野球よりも競技人口が多いほどですが、日本ではマイナー競技です。ルールも知らない人が多く、実際、会場に足を運んでもらうのも大変です。私は、多くの人に応援に来てもらい、興味を持ってもらいたい。そのためには、日ごろから所属会社の一員として、仲間として見ていただけるようになりたい。私が率先して競技の魅力を発信することで、カヌースラロームの価値を上げたいです。

潮崎 十種競技は陸上の中でも特別な種目、マイナー種目で知名度もまだ低い。でも僕は、絶対に「感動を与えられる」スポーツだと思っています。自分自身の活躍も大切ですが、多くの人に感動を与えたいという気持ちでやっています。

中国 中学までは初対面の人と話すのが苦手でしたが、高校に入ってトランポリン部の部員が50人を超え、新入生がたくさん入ってくる中で、実際に話してみると全然印象が

違い、話してみないと分からない部分が多くあって、コミュニケーションの大切さに気付きました。そしてキャプテンを経験してみたいという思いが芽生えました。キャプテンになったことは最大の財産だと思うので、就職してからも積極的に自分からコミュニケーションを取りたいです。

荻原 私は中学生まで、モーグルを頑張ることは自分のためと思っていました。でも、祖父が入院したとき、「お前が頑張っているからおじいちゃんも頑張れるよ」と言ってくれました。私の頑張りが見た人に勇気を与えられていたらしいです。また、高校時代のコーチが「自分の気持ちを語ったり夢を語ったりすることは、その実現につながる」と教えてくださって、それからは自分の強み、例えばおしゃべりが大好きなところとか、逆に弱い面も発信することを心掛けています。

大西 皆さん、有言実行でぜひ頑張ってください。ところで、この数カ月間、いつもとは違う生活の中で、何を一番中心に考えて日々を送られたのでしょうか。

岡崎 東京2020大会出場はかなわないと、ちょっと気分が落ち込んでしまい、さらにコロナという状況でまた、何を目標にしていけば分からなくなり、結構落ち込みました。でも、取りあえずパリオリンピックを目指そうと、自粛期間中に一度自分をリセットし、目標を見失わないように努めました。

荻原 2022年の北京冬季オリンピックに出場している自分の姿を想像して、苦しいことがあっても、このときのために今自分は取り組んでいる、と考えて生活することを心掛けました。そうしたら、苦しいこともそれほど嫌ではなくなりました。

中国 自粛になったからこそできることを考えました。例えばパソコンのマスターです。それまで後回しにしてきたことが勉強でき、コロナがなかったらできなかったと、前向きに考えられました。

潮崎 中国さんと同じように、逆境にあっても自分ででき

ることを考えました。僕の場合は、早くけがを治して復帰することが大前提だったので、コロナをある意味プラスに考えて行動できました。あとは、全ての大会が中止になっていく中で、これまで大会ができたのも支えてくれる人がいたから、ということのを再認識しました。これからは今までとは違った気持ちで大会を迎えられると思います。

白井 4年後に向けて勝つにはどうしたらいいか、自分の競技の動画を見ながら研究していました。パリオリンピックまではあつという間だろうし、代表を決めるのは2年半後。そう時間はないので、いい時間を過ごせたと思います。

大西 アスリートの方は前向き、自分の頭の整理の仕方が前向きですね。久野さんは普段からこうした話を聞いておられると思いますが、久野さんだけでは実にもったいない。やはりJOC、経済同友会共催のアスナビの中で、選手の声をどんどん聞いて企業に発信していきたいと思います。

🗨️ コロナ禍でどう自分自身を見つめてきたのか

大西 続いて、10年にわたってさまざまなアスリートたちの就職を支援し続けてきた久野さんから、ご質問をお願いします。

久野 コロナ禍で、紆余曲折を経てようやくこの日の説明会までたどり着けた感があります。その間、皆さんが感じたこと、あるいは自分自身をどう見つめていたのか、教えてください。

白井 かなり厳しい経済状態の中、オンライン説明会にお集まりいただいた企業様に対して、感謝の気持ちでいっぱいです。多くの企業で社員、アルバイトの方々が困難に直面している中で、アスリートに対して説明会を開いていただいたことはとてもありがたく思います。

荻原 自分はエントリーシートを出した後、競技者、そして社会人としてどんなことをしたいのか、自己分析に努め

ました。自分から企業の方に直接お話をさせていただく機会も何度もあり、それを重ねていくうちに理想とするアスリート、社会人像を自分なりに描くことができました。

岡崎 アスナビで就活をする過程で私の強みを発見できました。先ほども申しましたが、私の強みは、何か話題を振ってもらえたら永遠にその人と話し続けられるくらい、人とコミュニケーションを取ることが好きなことです。社会人になっても活かしたいです。

中国 自分のエントリーシートや自己PRを見直す中で、あらためてアスリートとして特別な経験をさせてもらっていることを再認識できました。それがすごい自信にもつながりました。

潮崎 皆さんと同様、アスナビを利用させていただき、自分自身を見つめ直して、どういう社会人になりたいか考えることができました。それが一番良い経験になったと思います。正直なところ、採用が決まるかどうか不安でいっぱいですが、自分のできることをやるだけです。

久野 最後に、自分はこういうことがやりたいとか、私を採用したらこんなメリットがありますとか、自由に自己PRをしてください。

潮崎 十種競技という過酷な種目で培ったタフさと体力と精神力が武器です。

中国 トランポリンは幼児から大人まで楽しめるスポーツです。トランポリンについて多くの方に知ってもらい、楽しいと思った方にはぜひ競技にも参加していただいて、競技全体の発展にも尽力したいです。

岡崎 繰り返しになりますが、私は本当におしゃべりなので、周囲を明るくできます。必ずパリオリンピックに出場するので、応援してくれる社員さんは全員パリに来てもらう予定です。

荻原 幼いころからスキーマの楽しさをたくさんの選手やコーチから教えてもらってきたので、今度は私が多くの方に伝えていきたいと思います。私の名前の由来にもなっている、



「人を和ませる」ことを職場でも大切にしたいです。

白井 これは競技引退後の話ですが、営業職をやりたいです。次にやりたいのがマーケティングで、どういう経緯で人は物を買ってくれるのか、どういうことをすれば収益が上がるのかを極めたいです。

アスリートに求められる 共生社会の創出

大西 皆さん、ありがとうございました。企業がアスリートに求めるものの一つは、多種多様な人間と一緒に過ごせる

る共生社会の創出かと思います。もう一つ、体力的なエネルギーに加えてアスリートが持つ、精神的なエネルギー、目標を掲げて人並外れた情熱を持って取り組む活力というものも企業は求めています。「これに懸ける！」という高い気持ちを持ち続け、ぜひそれを多くの人に伝えてください。引き続き応援しますので頑張ってください。

久野 私も選手たちの知らない面をたくさん知ることができ、企業様に選手を紹介する際のヒントにしたいと思います。皆さんが蓄えてきた力は、必ずや企業の中でも活かせると思いますし、競技引退後もビジネスの世界で生きていけると信じています。

その他の就職希望のアスリート (2020年10月31日時点)

※年齢はアスナビ説明会開催日2020年9月16日時点

オリンピックを目指す アスリート▶▶▶	 相原 大聖 (25歳) 陸上競技(やり投)	 岡崎 一輝 (22歳) 陸上競技(円盤投)	 都 康炳 (23歳) 陸上競技(400mH)
 石橋 和也 (21歳) 陸上競技(棒高跳)	 古旗 崇裕 (23歳) 陸上競技(ハンマー投)	 諸田 実咲 (21歳) 陸上競技(棒高跳)	 山下 祐樹 (24歳) 陸上競技(三段跳)
 森口 諒也 (22歳) 陸上競技 (十種競技・110mH)	 小舘 充華 (22歳) 陸上競技(ハンマー投)	 坂本 達哉 (24歳) 陸上競技(やり投)	 木村 友大 (23歳) 陸上競技(ハンマー投)
 竹内 真弥 (21歳) 陸上競技(走幅跳)	 溝畑 樹蘭 (22歳) 水泳 競泳	 須山 晴貴 (22歳) 水泳 飛込	 赤羽根 康太 (22歳) 水泳 競泳
 黒川 寛輝ディラン (21歳) バレーボール ビーチバレーボール	 石川 和 (21歳) 体操 トランポリン	 阿部 敏弥 (21歳) レスリング	 田中 美紗樹 (22歳) セーリング
 渡部 雄貴 (25歳) セーリング	 向江 彩伽 (22歳) フェンシング	 鍋倉 那美 (23歳) 柔道	 長田 いろは (21歳) ラグビー
 大黒田 裕芽 (26歳) ラグビー	 佐田 野 (32歳) カヌー スプリント	 内田 弦大 (23歳) トライアスロン	 玉崎 稜也 (21歳) トライアスロン
 渡部 晃大朗 (26歳) トライアスロン	 石関 玲於 (22歳) トライアスロン	 小原 北斗 (22歳) トライアスロン	 松田 颯 (20歳) スキー フリースタイル
 福嶋 春花 (21歳) スキー フリースタイル	 島川 拓也 (21歳) スキー フリースタイル	 手計 岳隆 (21歳) スキー スノーボード	 鈴木 瑠奈 (23歳) スキー スノーボード
 岩井 真幸 (35歳) カーリング	 宿谷 涼太郎 (25歳) カーリング		
パラリンピックを目指す アスリート▶▶▶	 佐藤 圭一 (41歳) スキー/クロスカントリー バイアスロン	 戸篠 星願 (22歳) パラ競泳	

▶最新情報は右記URLをご参照ください。<https://www.joc.or.jp/about/athnavi/entrysheet/>



■お問い合わせ

アスナビに関するお問い合わせや、選手との面談希望、その他アスリートの就職支援をお考えの方は右記までご連絡ください。
なお、お問い合わせの際には「経済同友会の会員」の旨をお知らせいただけるとスムーズです。

公益財団法人日本オリンピック委員会
JOC キャリアアカデミー事業

担当：中村 (h-nakamura@joc.or.jp)

長谷川 (o-hasegawa@joc.or.jp)

電話：03-5963-0354

※電話受付時間は午前 10 時から午後 6 時まで